

リフォームをする前に考えたいこと

今まで住み心地が良かった家でも、築年数にしたがって、あちこちに不具合がでてきたり、家族の成長、加齢や構成の変化に伴って、住まいについてさまざまな問題が生じてきます。

どこをどう変えたら、快適な住まいができるのか、リフォームを考える時、大切なことは何でしょうか。

古いものをただ新しくするだけでなく、先ずそこに住む人が将来にむけてどういう暮らしを望んでいるのか、人生の新しいステップとして、リフォームが家族の生きざまを後押ししてくれ、安心安全で家族の幸せにつながり、より良い生活を助けるものでなければなりません。

その意味で、先ず第一にリフォームの目的が何なのかをユーザー自身が明確にもつことが重要です。

住む人が主人公

住宅をリフォーム(新築のときも)する場合は中心的作用を果たすのは誰でしょうか。それはその「住まいに住む人」です。しかし、その人は専門的知識を持っていません。

したがって本来の「正しい住宅」の計画は、住む人と設計士や大工さんとが心と心を通わせ、お互いの知恵を持ち寄った合作であるべきでしょう。プロだから全てを「お任せします」では、のちの後悔のもとです。まして、大手のハウスメーカーの住宅展示場などで見た見栄えのよい、一見モダンなデザインなどに目をうばわれた思いつきなどではよい家づくりはできません。

天然素材は健康によい

当組合の施工例。台所や居間の床板を合板(ベニヤ

の上に薄い本物の板を張り合せた物)から杉板の30ミリの無垢板に替えたら、合板では足元が熱をうばわれ冷たかったのが、無垢板は暖かみがあってよかったですと喜ばれています。

木材は気候によって、人間に合うように温度や湿度の調節もしてくれるのです。

また最近では火災による死者が増えています。それは住宅に新建材(化学物質)が多く使われているため、火災の場合、屋外に逃げる前に新建材から発生する有毒ガスを吸い込んでしまう結果の「煙死者」が多いのです。

利便性と経済性

近頃は高断熱・高气密の住宅がふえています。

Fさん宅は徹底した断熱工法によって機密性の高い住宅にしました。風通しの良かった今迄の木造住宅では空気中の塵や埃は自然に外へ出ていったのですが、機密性の高い住宅では換気をしない限り塵や埃は溜まるばかりです。Fさん宅では家族が湿疹やぜん息などアレルギー性疾患にかかってしまいました。その上、冷暖房をエアコン等の家電に頼る生活となつて経済的にも負担が増えてしまいました。

リフォームする時よくあるのは、途中であれこれと気が付いて追加工事をする例が多いことです。

最初にしっかりと計画を立て、施工者と十分な打ち合わせをしないとあとあと金銭的なトラブルのもとにもなります。他にも老後のこと、耐震対策、水まわり、収納等々、しっかりと将来を見据えた計画を立てましょう

現場監督・管理 (木造、新築・リフォーム)

- 資格…建築科卒・パソコン操作・普免所持
- 試用期間…3ヶ月
- 勤務時間…8時～17時(残業月平均40時間)
- 年齢…20才～30才
- 賃金…基本給・見習い15万円/経験者20万円+職務給・家族手当・通勤手当
- 社会保険・労働保険加入
- 協同組合に理解のある方・自筆履歴書持参 ※委細面談

営業支援 (男女不問・巡回訪問サービス)

- 資格…パソコン操作・車、バイク免許
- 試用期間…3ヶ月
- 賃金…時給800円～900円
- 勤務時間…9時～16時(週4日程度、相談の上)
- 年齢…25～45才
- 労災保険加入、自筆履歴書持参、委細面談



スタッフ募集